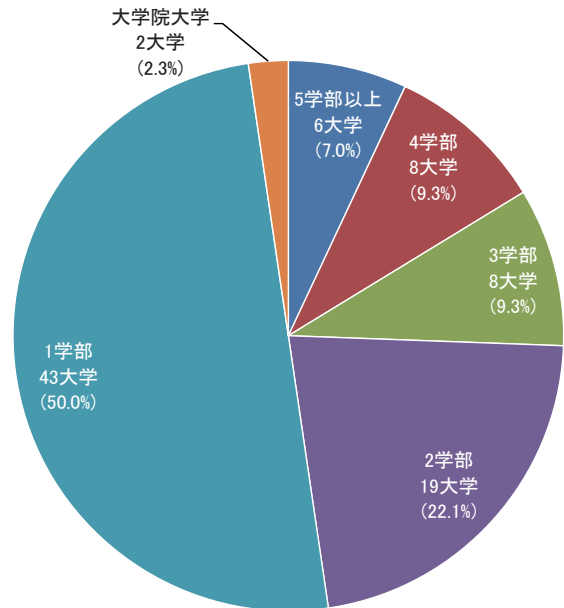


「公立大学の約半数は単科大学」

○公立大学には、都市部に設置された総合大学が存在する一方、地域の強い要請によって特定分野の人材育成を目的として設置された比較的小規模の大学が多い。

各公立大学の学部数



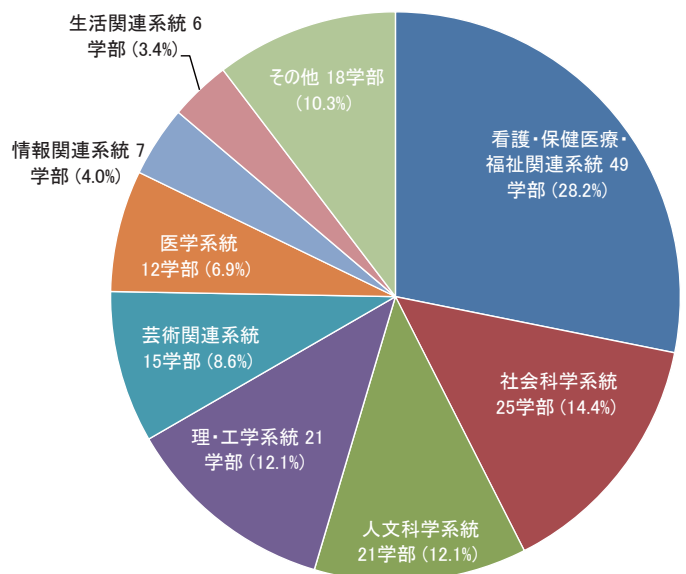
平成27年度公立大学便覧より作成

「174学部のうち、看護・保健医療・福祉・健康系統の学部が49学部」

○学部の系統別(※)の設置傾向をみると、最も多い系統は、看護・保健医療・福祉・健康系統の学部である。当該系統の学部は、全174学部の1/4を超える49学部であり、43大学に設置されている。

○公立大学において、この分野に関連する学部が数多く設置されてきた背景には、平成4年に制定された「看護師等の人材確保の促進に関する法律」に基づいて、地域における看護師等の確保を必要としていた自治体が公立大学をその養成機関として位置付けたためである。

(※) 学部の系統分類は公立大学協会事務局によるものである。

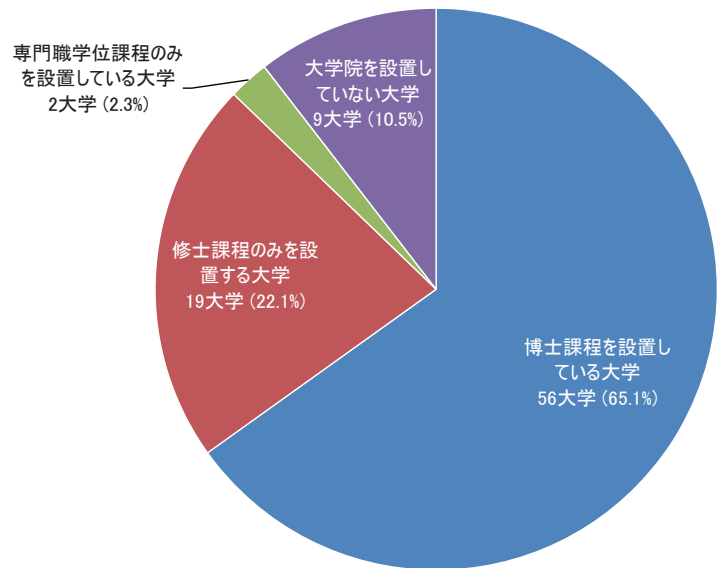


平成27年度公立大学便覧より作成

「約9割の公立大学が大学院を設置」

○86の公立大学のうち、博士課程を設置している大学は55大学（64.0%）、修士課程のみを設置する大学は19大学（22.1%）、専門職学位課程のみを設置している大学が2大学（2.3%）であり、合計76大学（88.4%）に大学院が設置されている。

大学院の設置状況



平成26年度公立大学便覧より作成

「15万人弱の学生と1万3千人の教員、5千4百人の職員」

○平成27年度の公立大学の学生数^(※1)は148,766人、教員数^(※2)は13,126人、職員数^(※3)は5,477人である。前年度と比較すると、学生数は724人(0.5%)の増、教員数は113人(0.9%)の増、職員数は150人(2.8%)の増となった。

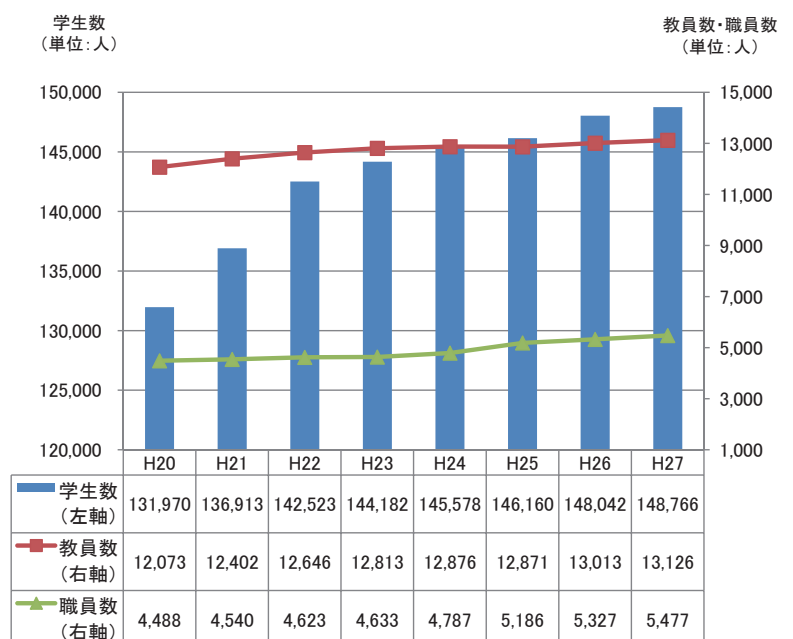
以下は、学校基本調査より作成した資料共通

(※1) 学校基本調査における学生数(学部及び大学院の学生のほか、専攻科・別科の学生及び科目等履修生・聴講生・研究生を含む。)

(※2) 学校基本調査における教員数(本務者)

(※3) 学校基本調査における職員数(本務者)から医療系の人数を除いた数

公立大学の学生数・教員数・職員数の推移



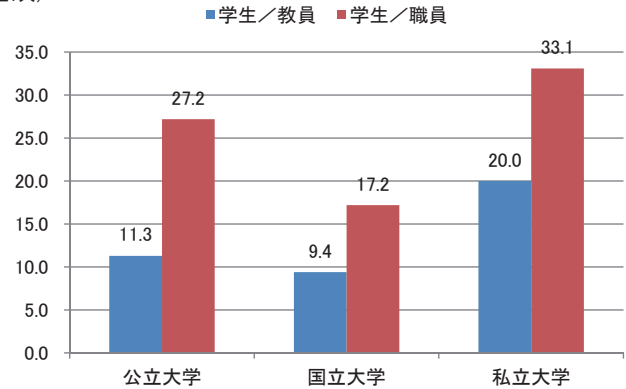
文部科学省学校基本調査より作成

「教員一人当たりの学生数は11.3人」

- 平成27年度における公立大学の教員1人当り学生数は11.3人であり、9.4人の国立大学とほぼ同水準、20.0人の私立大学のほぼ1/2倍の規模となっている。少人数教育に適した環境であることがわかる。
- また、職員一人当たりの学生数は27.8人である。17.2人の国立大学に比して2/3の人員であり、公立大学の多くが小規模な大学であることも考慮すれば、より少ない職員数で大学運営が行われているといえる。

教員及び職員1人当たりの学生数(設置形態別)

(単位:人)



(参考)設置形態別の平成27年度学生・教員・職員数

	公立大学	国立大学	私立大学	合計
学生数	148,766 5.2%	610,802 21.4%	2,100,642 73.4%	2,860,210
教員数	13,126 7.2%	64,684 35.4%	104,913 57.4%	182,723
職員数	5,477 5.3%	35,457 34.0%	63,386 60.8%	104,320

(下段は合計に占める比率)

平成27年度文部科学省学校基本調査より作成

2 公立大学の財政

「公立大学の大学経費予算額は3,083億円」

- 平成27年度における公立大学全体の大学経費(附属病院に係るものを除いた公立大学の經常費予算額と臨時費予算額の合計をいう。以下同じ。)の規模は3,083億円であり、前年度に比べ9億円の増(0.3%)となっている。

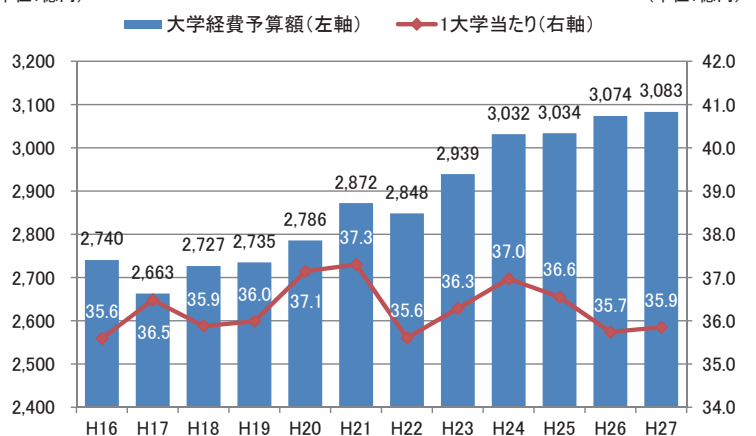
「公立大学の規模は増加傾向」

- 平成16年度以降、ほぼ毎年新たな大学の設置等があることから、公立大学の大学経費予算額の総額は、若干増減しながらも、全体としては増加傾向にある。

大学経費予算額の12年間の推移

(単位:億円)

(単位:億円)



(参考)12年間の公立大学数の推移

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
大学総数	77	73	76	76	75	77	80	81	82	83	86	86
新規開学等 ^(※)	4 (-3)	6 (-10)	3	0	1 (-2)	4 (-2)	3	1	1	1	3	0

※設置者変更(学校法人から公立大学法人へ)により新たに公立大学となった大学、および改組・統合による新大学を含む
・()内は改組・統合によって学生募集を停止した大学数

公立大学便覧より作成

「大学経費予算額＝設置者決算額の0.5%」

- 公立大学の設置者（公立大学法人の場合は、法人の設立団体）である地方公共団体の数は、平成27年度において67（42都道府県、1県市共同、23市、3事務組合等）となっている。設置者決算額（B）は合計で56兆9,152億円、教育費総額（C）は10兆8,579億円（決算総額の19.1%）となっている。
- 平成27年度の大学経費予算額（A）3,083億円をこれらと比較すると、設置者決算額（B）の0.5%、設置者教育費総額の2.8%となる。
- また、地方財政全体における公立大学関係経費の割合をみるため、平成27年度地方財政計画の規模（D）との比較も行った。

（※）設置者決算額及び設置者教育費総額は、平成25年度の数値を使用している。

（※）地方公共団体数は、公立大学便覧から引用。

大学経費予算額が設置団体決算額等に占める割合

【金額】

大学経費予算額 A	3,083億円
設置者決算額 B ^(※)	56兆9,152億円
設置者教育費総額 C ^(※)	10兆8,579億円
平成27年度地方財政計画の規模 D	85兆2,710億円

【大学経費が占める割合】

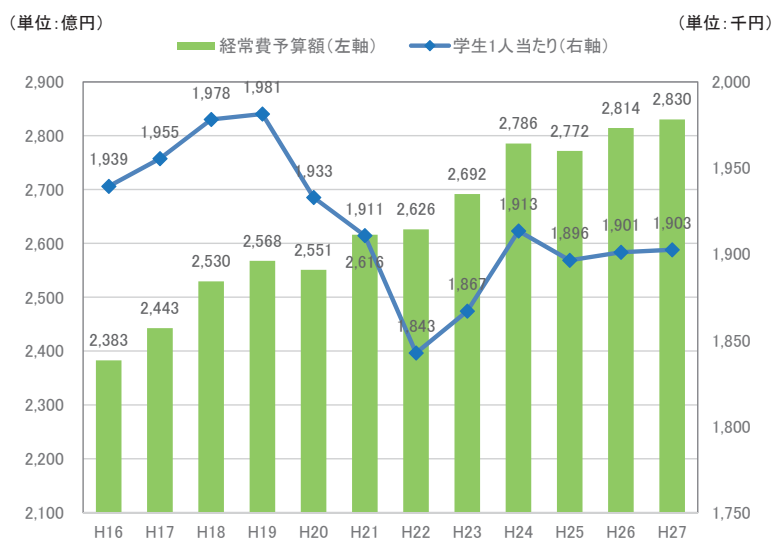
対設置者決算額 A/B	0.5%
対設置者教育費総額 A/C	2.8%
対地方財政計画の規模 A/D	0.4%

平成27年度公立大学便覧、総務省自治財政局「平成27年度地方財政計画の概要」より作成

「公立大学の経常費予算額は2,830億円」

- 平成27年度の公立大学全体の経常費予算額（附属病院に係るものを除く人件費予算額と物件費予算額の合計。以下同じ。）の規模は2,830億円であり、前年度に比べ16億円（0.6%）の増となっている（棒グラフ）。
- この数年の上昇の要因としては、公立大学数の増加等が考えられる。
- 一方で、経常費予算額を学生一人当たりで見ると（折れ線グラフ）、おおむね減少傾向にあり、経営の効率化が図られている様子がうかがえる。

公立大学の経常費予算額の12年間の推移



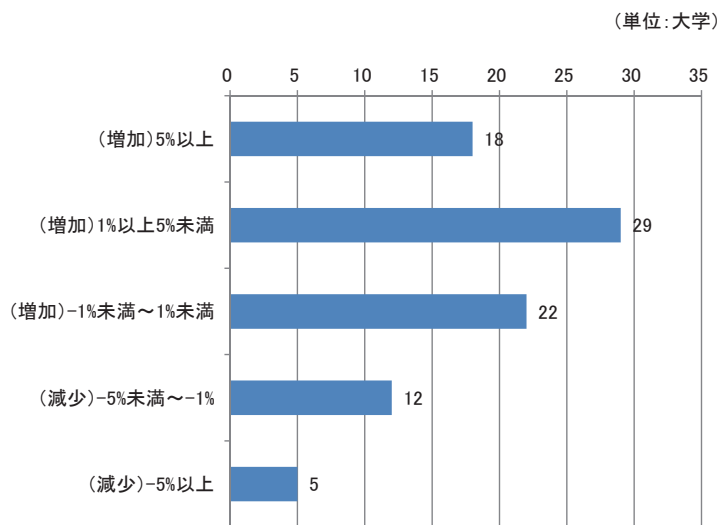
公立大学便覧及び学校基本調査(学生)より作成

「経常費予算額の前年度比増減率に大きな差」

○大学別に経常費予算額の前年度比増減率の状況をみていくと、±1%の範囲に位置しているのは22大学であり、全体の25.6%となっている。

一方、5%以上の増加となっている大学が18大学あり、また5%以上減少している大学も5大学存在している。

経常費予算額の前年度比増減率の状況



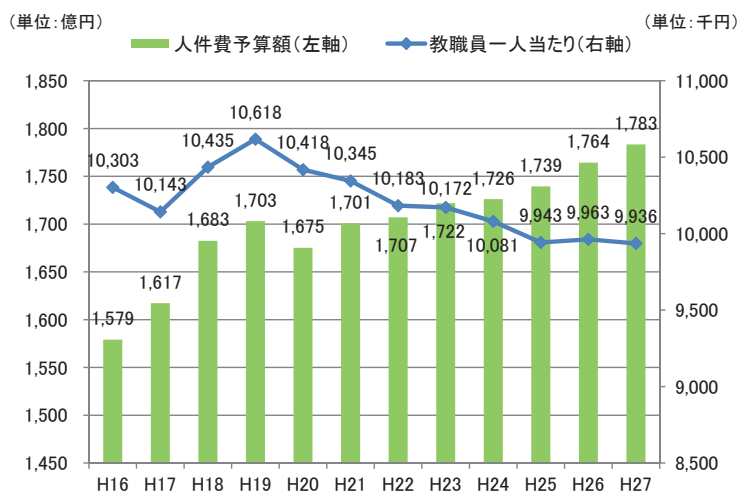
平成27年度公立大学便覧より作成

「公立大学の人件費予算額規模は1,764億円」

○平成27年度の公立大学全体の人件費予算額（附属病院に係るものを除く。以下同じ。）の規模は1,783億円であり、前年度に比べて19億円（1.1%）の増となっている（棒グラフ）。

○一方で、人件費予算額を教職員（※）一人当たりで見ると（折れ線グラフ）、減少傾向にある。

人件費予算額の規模

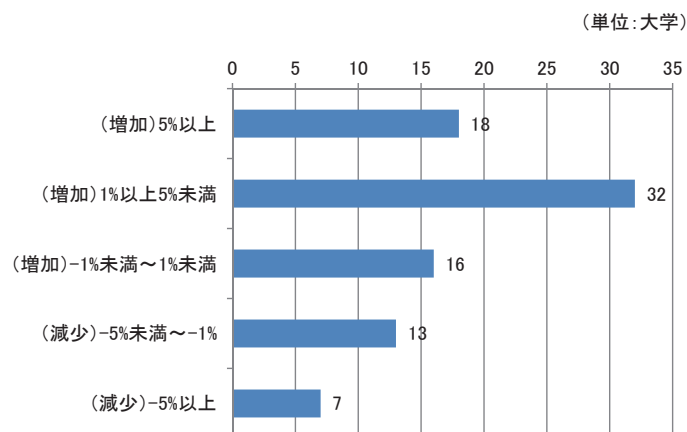


公立大学便覧及び学校基本調査(教職員数)より作成

「人件費予算額の対前年度増減率に大きな差」

○大学別に人件費予算額の対前年度増減率の状況を見ると、18大学で5%以上増加している一方、7大学で5%以上の減少となっている。増加の要因としては、完成年度に満たない大学や大学院研究科を新設した大学の予算額の追加等が考えられる。

各大学の人件費予算額の対前年度増減率の状況

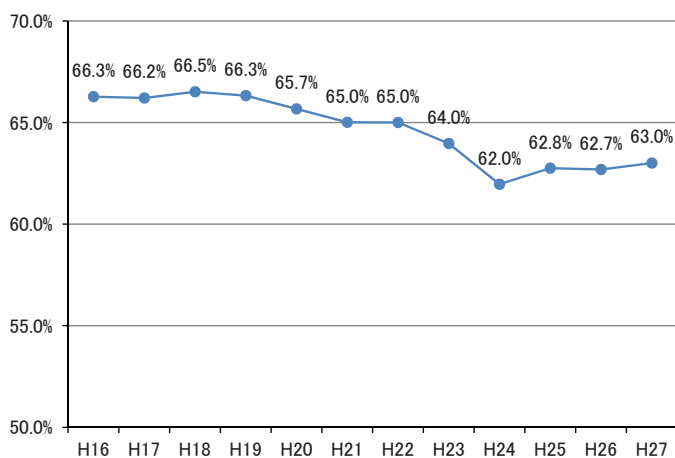


平成27年度公立大学便覧より作成

「全体の人件費予算額比率は減少傾向」

○経常費予算額における人件費予算額比率について、公立大学全体の傾向をみると、平成13年度以降概ね66%前後で推移してきたが、平成18年度以降は概ね減少傾向である。

経常費予算額に占める人件費予算額比率の推移

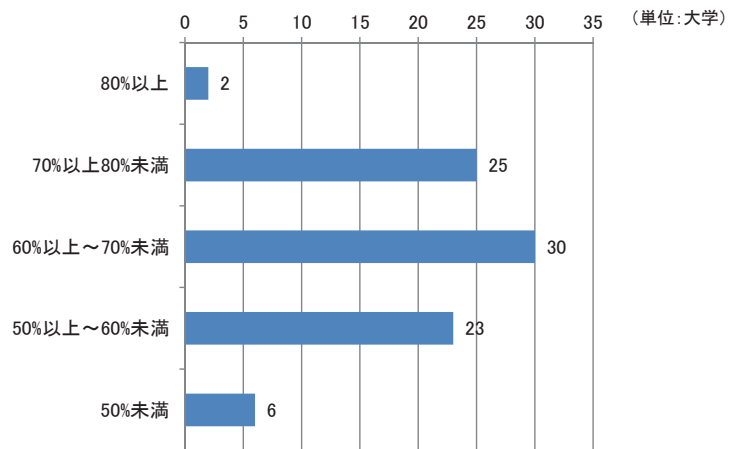


公立大学便覧より作成

「各大学の人件費予算額比率は幅広く分布」

○大学別に経常費予算額に占める人件費予算額比率の状況をみると、おおむね50%から80%の間に分布している。

各大学の経常費予算額に占める人件費予算額比率の状況



平成27年度公立大学便覧より作成

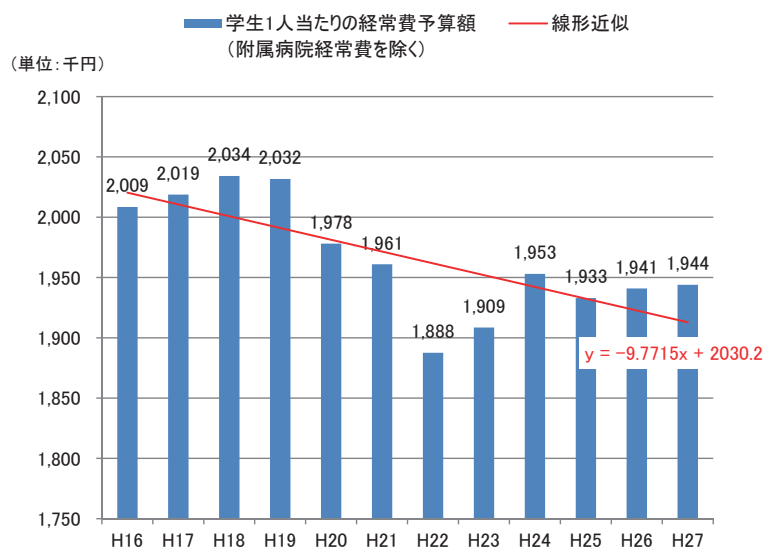
「学生1人当たりの経常費予算額は1,944千円」

○公立大学全体の経常費予算額を学生1人当たり換算すると、平成27年度は1,944千円である。

過去11年間の推移は右図（棒グラフ）のようになり、年平均1万円弱減少している様子が見える。

※公立大学実態調査表による経常費予算額及び学生数により算出した。なお、学生数には、学校基本調査とは異なり、科目等履修生・聴講生・研究生等は含まれない。

学生1人当たりの経常費予算額の12年間の推移



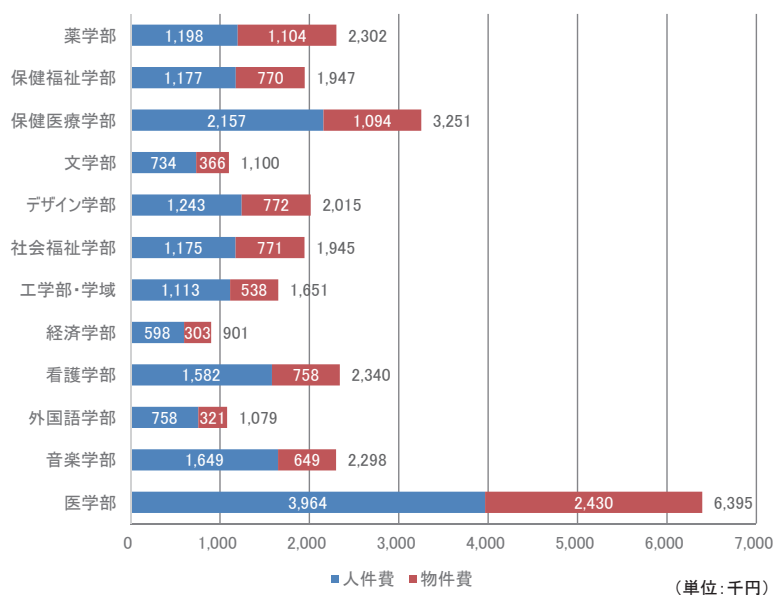
公立大学実態調査表より作成

「学部別の学生一人当たり経常費予算額： 医学部は平均 6,395千円(※)」

○公立大学に設置されている学部のうち、3大学以上に置かれているものについて、学部別の学生一人当たりの経常費予算額と内訳（人件費及び物件費）の平均を算出した。

※学部と研究科の予算が一体となっている場合には、研究科の予算も含まれている。

学部別学生1人当たりの経常費予算額



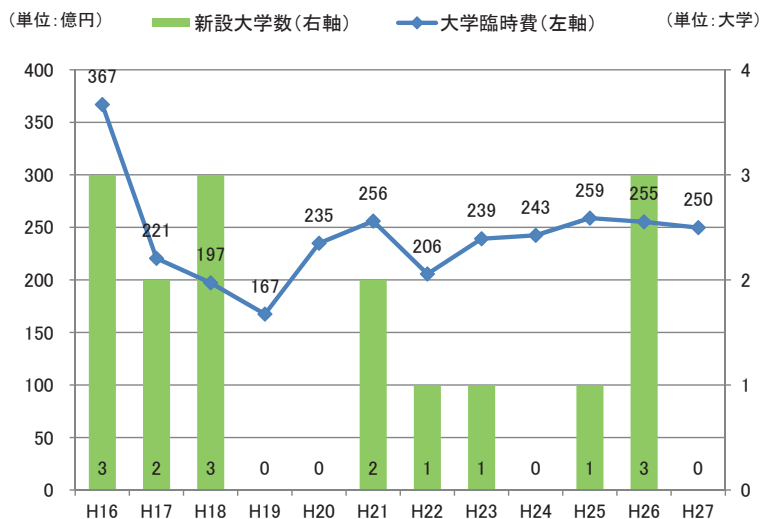
平成27年度公立大学便覧より作成

「平成27年度の臨時費予算額の規模は 250億円」

○大学の投資的費用である臨時費予算額は、施設設備の新設・更新状況によって、年度ごとの変動が大きい。平成27年度の公立大学全体の臨時費予算額（附属病院に係るものを除く。以下同じ。）の規模は、250億円である。

臨時費予算額の12年間の推移

※新設大学数には、学校法人から設置者変更した大学を含まない



公立大学便覧より作成

「経常費予算額に占める自主財源額の割合は増加傾向」

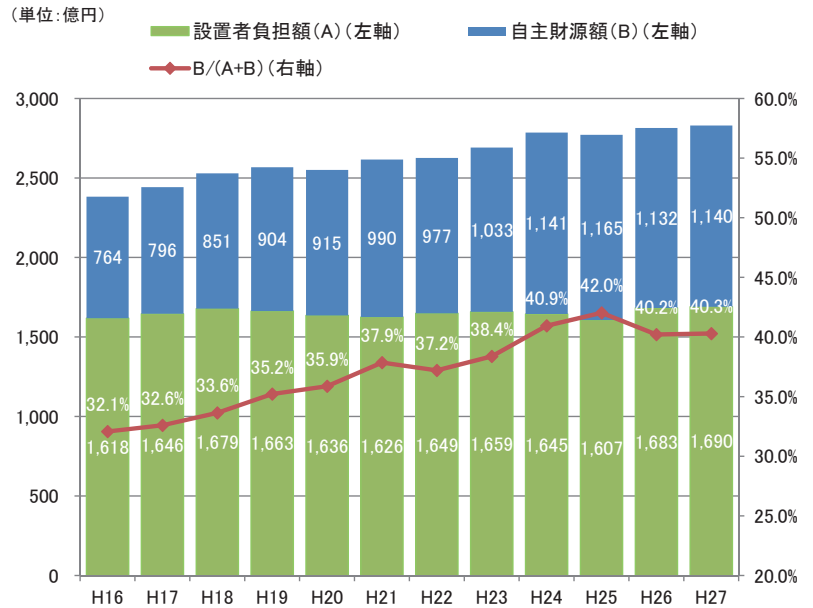
○平成16年度以降の経常費予算額について、その内訳（設置者負担額（※）、自主財源額）及び自主財源額の割合をグラフにまとめると、右図のようになる。

自主財源額の割合（折れ線グラフ）は、増加傾向にある。

○大学数は増加しているが、設置者負担額は横ばいとなっている。

（※）一般財源都道府県市負担額（公立大学法人にあっては、運営費交付金充当額及び施設費補助金等）の内、経常費（附属病院に係るものを除く）を設置者負担額という。以下同じ。

経常費予算額に占める自主財源の額の推移



公立大学実態調査表より作成

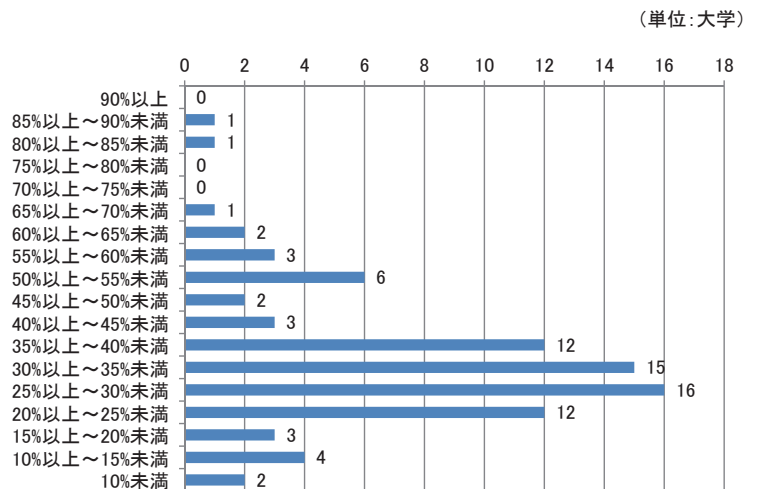
「経常費予算額に占める学生納付金等の割合は大学により大きく異なる」

○経常費予算額に占める大学ごとの学生納付金等の割合は、右図のとおり多様である。

※学生納付金等には、入学検定料、入学料、授業料の他、研修料、聴講料、実験実習費収入等が含まれる。

※完成年度を迎えていない3大学（秋田公立美術大学、山形県立米沢栄養大学、敦賀市立看護大学）は除く。

経常費予算額に占める学生納付金等の割合に関する各大学の分布



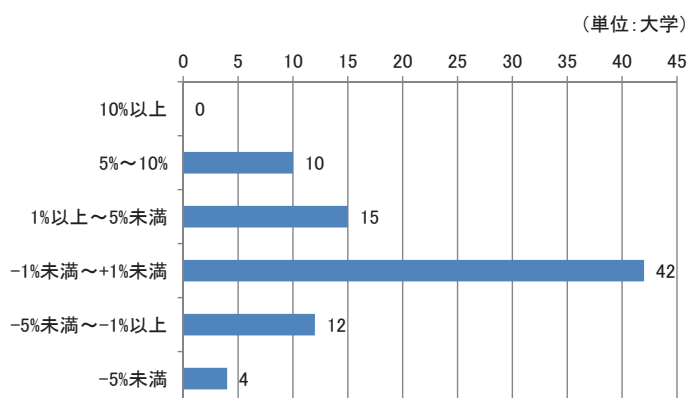
平成27年度公立大学便覧より作成

「学生納付金等は増加傾向」

- 自主財源額のうち、学生納付金等について、前年度比増減状況は右のとおりとなっている。
- 1%以上減少している大学が16（全体の約19.2%）ある一方、1%以上増加している大学は25（30.1%）あり、自主財源額が全体として増加傾向であることが裏付けられている。

※完成年度を迎えていない3大学（秋田公立美術大学、山形県立米沢栄養大学、敦賀市立看護大学）は除く。

学生納付金等の対前年度比増減状況

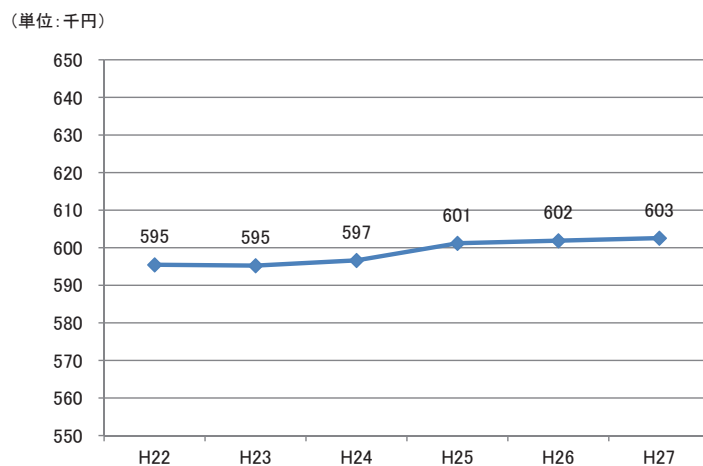


平成27年度公立大学便覧より作成

「学生一人当たりの学生納付金等は603千円」

- 学生納付金等の学生一人当たりの額について、平成22年度以降の推移は右のとおり。

学生1人当たりの学生納付金等の推移



公立大学便覧より作成

地方交付税基準財政需要額における 公立大学学生1人あたりの単位費用

(単位:千円)

種別	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	増減率 H26→H27
医科系	4,586	4,499	4,306	4,156	4,110	3,996	4,092	4,057	4,028	3,940	3,889	3,848	▲1.1%
歯科系	2,775	2,718	2,613	2,508	2,458	2,306	2,391	2,374	2,359	2,303	2,269	2,241	▲1.2%
理科系 (都道府県)	2,004	1,961	1,811	1,762	1,709	1,688	1,844	1,832	1,832	1,794	1,758	1,723	▲2.0%
理科系 (市町村)	1,746	1,706	1,572	1,548	1,501	1,480	1,511	1,499					
保健系 (H25に理科系から分離)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2,018	1,999	1,977	▲1.1%
社会科学系 (H24まで文科系)	334	308	273	256	245	227	248	243	242	224	220	214	▲2.7%
人文科学系 (H25に文科系から分離)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	455	450	443	▲1.6%
家政系・芸術系 (道府県)	886	856	808	765	753	722	752	744	740	715	713	704	▲1.3%
家政系・芸術系 (市町村)	1,061	1,029	969	934	918	884	915	905	900	852	840		

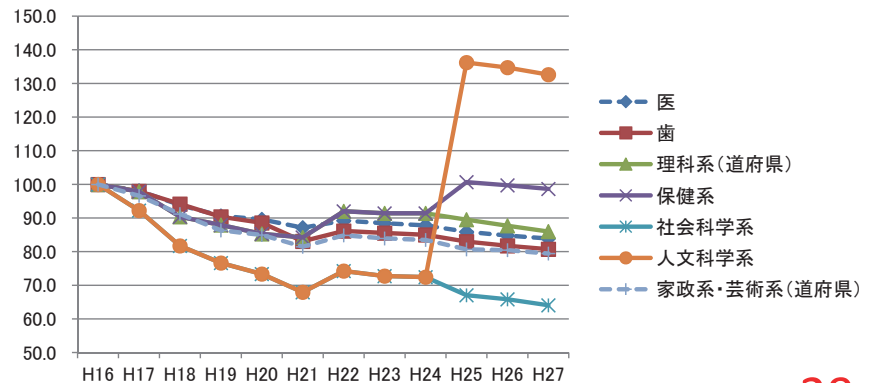
交付税算定における公立大学学生1人当たりの単位費用(補正係数を乗じた額)は、平成16年度から平成21年度の6年間で、社会科学系・人文科学系が▲32.0%の減少となるなど、全体として大幅に減少した。

平成22年度においては新政権の発足もあって、若干増加に転じたが、平成23年度以降は再び減少傾向にある。

〈平成25年度の変更点〉

- 保健系学部が理科系学部から分離した。
- 文科系学部が社会科学系と人文科学系に二分された。その際、人文科学系の単位費用が大幅に増加した。

平成16年度を100とした推移



「設置者負担額が基準財政需要額に満たない大学は28大学」

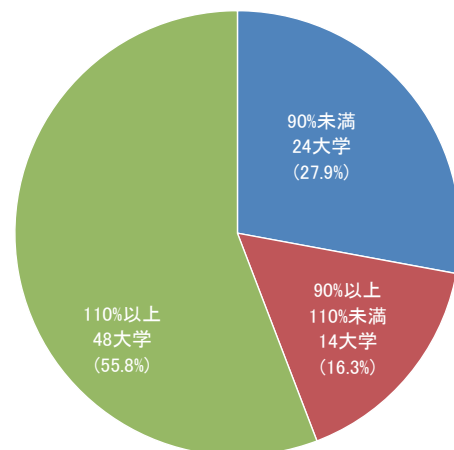
- 公立大学に対する設置者の財政投入の状況を概観するため、基準財政需要額を公立大学の運営に要する経費の目安として、平成27年度の設置者負担額との比較を行った。

各大学に係る基準財政需要額(※)を100%とした場合の設置者負担額の規模について、大まかに、基準財政需要額を上回る額(110%以上)を投じられている大学、ほぼ同程度(90%以上110%未満)の大学、下回っている(90%未満)の大学、3つのカテゴリに分類した。

- (※) 各大学に係る基準財政需要額は、単位費用をもとに協会事務局で試算した概算数値。

基準財政需要額に対する設置者負担額の割合

※基準財政需要額を100とした場合

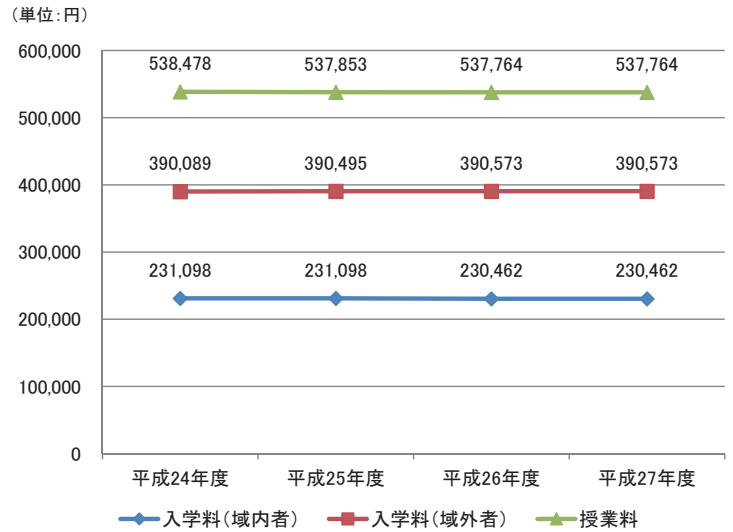


「地域に配慮した入学料設定」

○公立大学の自主財源額の大半を占める学生納付金等について、学部学生の入学料及び年間授業料の状況を示した。

○公立大学の特性として、立地している都道府県域や市域等からの入学者等と、それらの域外からの入学者との間で、異なる入学料の設定をしている大学が多いことが挙げられる。このことは平均額にも表れており、平成27年度における域外者が390,573円であるのに対し、域内者は230,462円と半額近い水準になっている。

公立大学学部生の入学料及び年間授業料の平均額(昼間部のみ)



平成27年度公立大学実態調査表より作成

○右の表は、各大学の入学料及び授業料の水準を国立大学標準額(以下標準額とする)と比較したものである。

○入学料の差異化の方法については、域内者を標準額より低額に設定する、域外者を標準額より高額に設定する、その双方を併せるケースがある。

○授業料については、域内・域外者による差異を設けている大学はなく、国立大学標準額より低額に設定している大学が5大学、高額に設定している大学が3大学ある。

国立大学標準額との比較

・大学院大学を除く84大学

【入学料】

国立大学標準額 (¥282,000-)との比較	大学数
域内者:同額 域外者:同額	4大学 (4.9%)
域内者:「下回る」 域外者:同額	19大学 (23.5%)
域内者:同額 域外者:「上回る」	37大学 (45.7%)
域内者:「下回る」 域外者:「上回る」	23大学 (28.4%)
域内者:「下回る」 域外者:「下回る」	1大学 (1.2%)

【授業料】(入学料と異なり、域内者・域外者の区分なし)

国立大学標準額 (¥535,800-)との比較	大学数
標準額を上回る	3大学 (3.7%)
標準額と同額	76大学 (93.8%)
標準額を下回る	5大学 (6.2%)

平成27年度公立大学実態調査表より作成

3 公立大学の組織

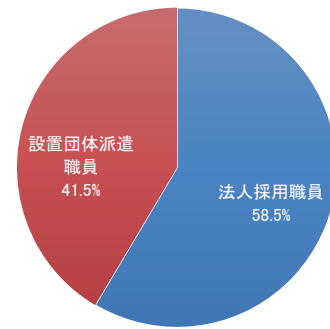
「法人化に関連した取組み: 公立大学法人の事務職員の内58.5%が法人採用職員」

○公立大学法人化により、各大学は、法人独自に職員を採用できることとなった。平成27年度時点における事務職員全体に占める法人採用職員の割合は、右図の通りである。

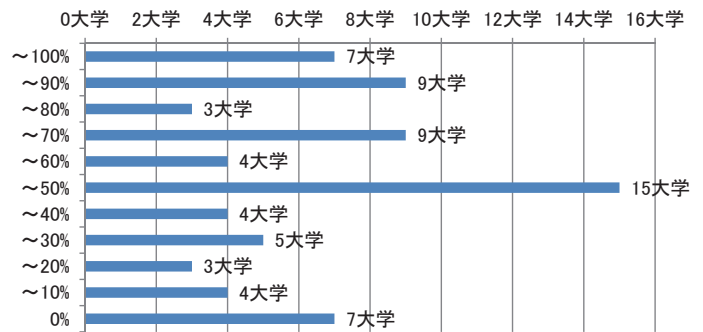
※公立大学法人が設置する公立大学のみを集計。
 ※職員数の内、司書系・技術技能系・医療系・教務系・その他を除いた事務系の職員の数値を使用。本務職員のみを対象とする。

○公立大学法人が設置する70大学における事務職員に占める法人採用職員の比率を右に示した。
 ○20%以下の大学が15大学（28.6%）である一方、50%を超える職員が法人採用職員である大学は32大学（45.7%）となっている。

法人が設置する公立大学全体の事務職員に占める法人採用職員の割合



法人が設置する各大学の事務職員に占める法人採用職員の割合



平成27年度公立大学実態調査表より作成

「その他の取組み(男女共同参画): 国立、私立大学に比べ、高い女性比率」

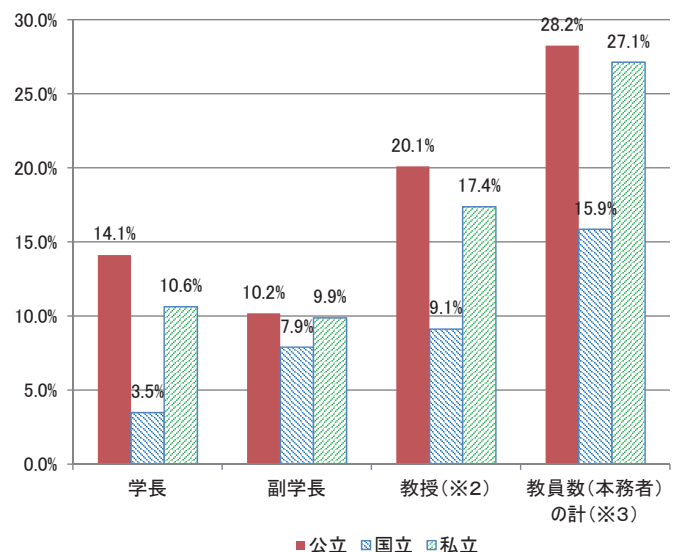
○設置形態別に、教員数（本務者）（※1）の女性比率を比較すると、公立大学は最も高い割合を示しており、公立大学の教員数（本務者）の計（※3）における女性比率は28.2%となっている。

（※1）教員数（本務者）の定義は、学校基本調査による（学長、副学長の他、学部、教養部（一般教育）、大学院、附属病院、附属研究所、その他に勤務する本務教員が含まれる。）。

（※2）教授には学長、副学長は含まれない。

（※3）教員数（本務者）の計には、学長、副学長、教授の他、准教授、講師、助教、助手が含まれる。

教員数(本務者)の女性比率



平成27年度文部科学省学校基本調査より作成

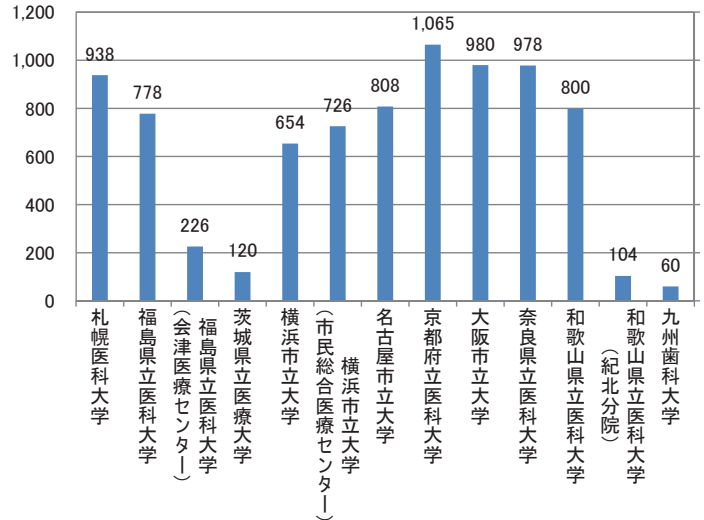
「地域医療を支える10大学13病院」

○公立大学には医学部を有する大学が8大学、歯科大学が1大学のほか、附属病院を有する医療系大学も1大学あり、それら10大学に合計13の附属病院（分院を含む）が存在している。

公立大学附属病院の規模（許可病床数）

（平成27年度）

（単位：床）



平成27年度公立大学実態調査表より作成

4 公立大学の学生

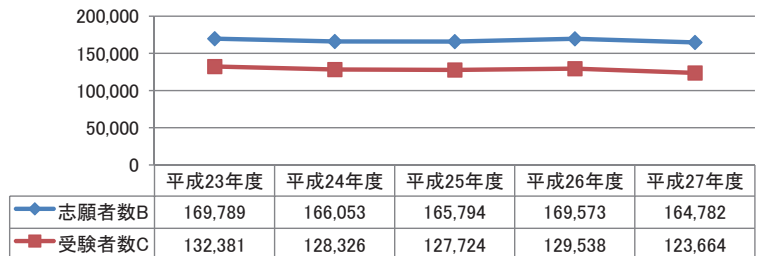
「約16万人が公立大学を志願」

○学部、大学院を合わせた公立大学の志願者数、入学者数等の状況は右のようになっている。

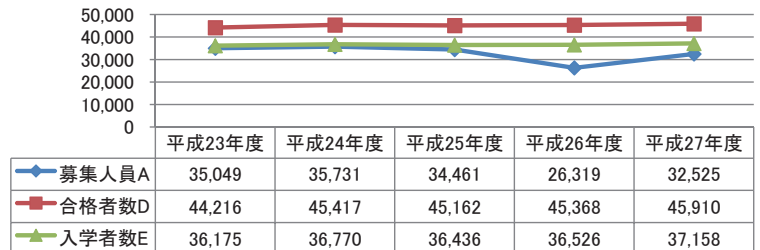
平成27年の志願者数は、164,782人で前年度から4,791人（2.8%）の減。入学者数は37,158人で、前年度から632人（1.7%）の増となっている。

志願者、入学者等の状況（5年比較）

（単位：人）



（単位：人）



志願倍率等の状況（5年比較）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
志願者倍率 B/A	4.8倍	4.6倍	4.8倍	6.4倍	5.1倍
受験者 C/B*	78.7%	77.3%	78.0%	76.4%	76.2%
競争率 C/D	3.0倍	2.8倍	2.8倍	2.9倍	2.7倍
入学率 E/D	81.8%	81.0%	81.0%	80.5%	80.9%

B* = B - (1次選抜不合格者)

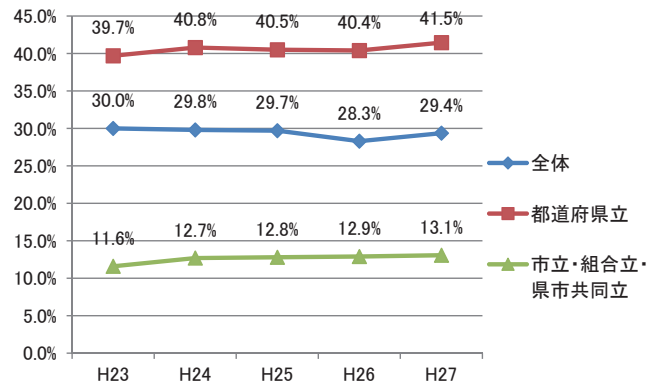
平成23～27年度公立大学実態調査表より作成

「入学者の約3割が域内者」

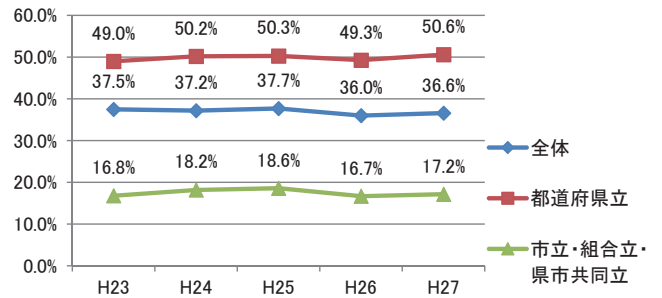
- 公立大学の志願者に占める域内者の割合は、3割程度で推移している。
- また、公立大学全体の入学者に占める域内者の割合は、4割をやや下回る程度で推移している。
- 設置者の違いに着目して志願者及び入学者に占める域内者の状況を比較すると、都道府県立は域内者の割合が高いのに対し、市立・組合立・県市共同立は域内者の割合が低い傾向にある。

※大学院大学の志願者・入学者は除く。

設置者別 志願者における域内者の状況(5年比較)



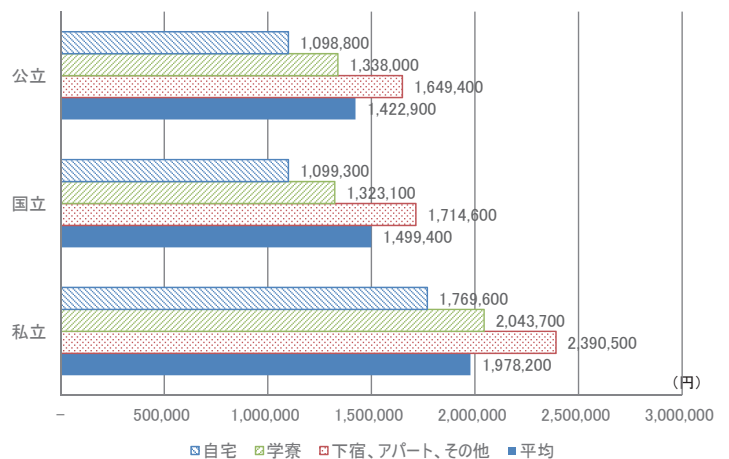
設置者別 入学者における域内者の状況(5年比較)



平成23～27年度公立大学実態調査表より作成

- 設置形態別の学生年間生活費（支出）をグラフ化すると右図のようになる。公立大学の学生の生活費は、平均で見ると、国立大学の学生より5.1%少なく、私立大学の学生より28.1%少ない。

学生年間生活費(大学昼間部)



(独)日本学生支援機構「平成26年度学生生活調査」より作成

家庭の年間収入別学生数の割合をみると、公立大学の学生は800万円未満の所得区分に集中しており、地域の勉学意欲をもつ若者の学びの場として、公立大学はその役割を果たしている。

家庭の年間収入別学生数の割合(大学昼間部)

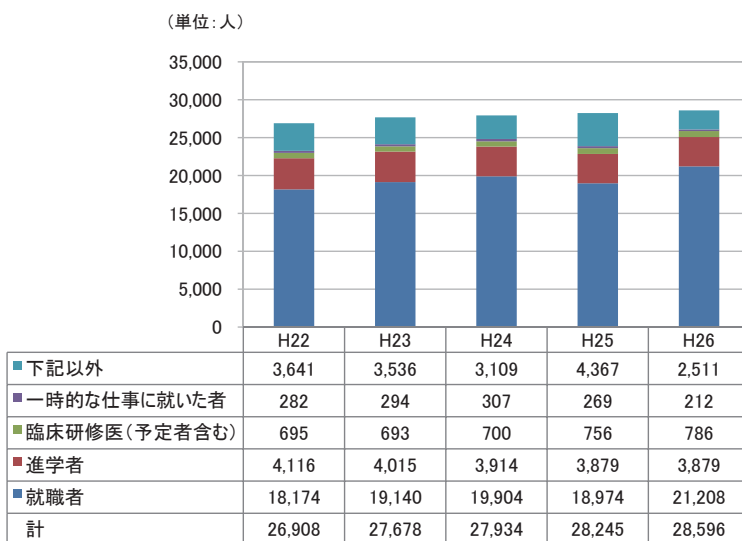


(独)日本学生支援機構「平成26年度学生生活調査」より作成

「平成26年度の卒業生数は28,596人」

- 平成26年度の公立大学の卒業生数(学部のみ)は28,596人となっており、前年の27,934人から351人(1.2%)の増であった。
- その進路を見ると、就職者が21,208人(74.2%)、進学者が3,879人(13.6%)、臨床研修医(予定者含む)が786人(2.7%)、一時的な職に就いた者が212人(0.7%)、上記以外が2,511(8.8%)となっている。

卒業生の進路状況(5年比較)



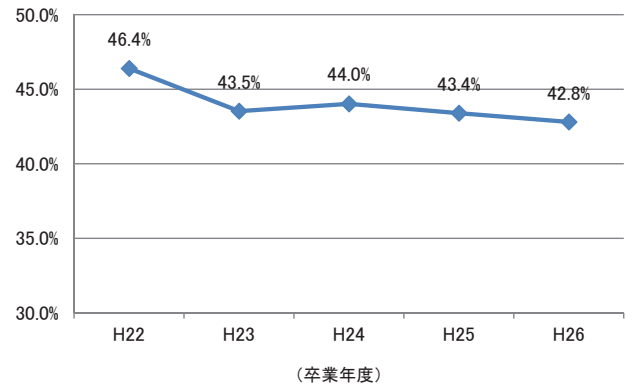
平成23～27年度公立大学実態調査表より作成

「大学所在地と同一の都道府県内への就職率は概ね44%前後で推移」

○公立大学卒業生で、就職した者のうち、就職先の地域が把握できているものについて、大学所在の都道府県域内への就職率を示した。

※就職者における地域別の内訳が集計できない大学が存在するため、協会事務局で把握できる大学の数値のみ集計した。

大学が所在する都道府県内への就職率



平成23～27年度公立大学実態調査表より作成

5 公立大学の研究

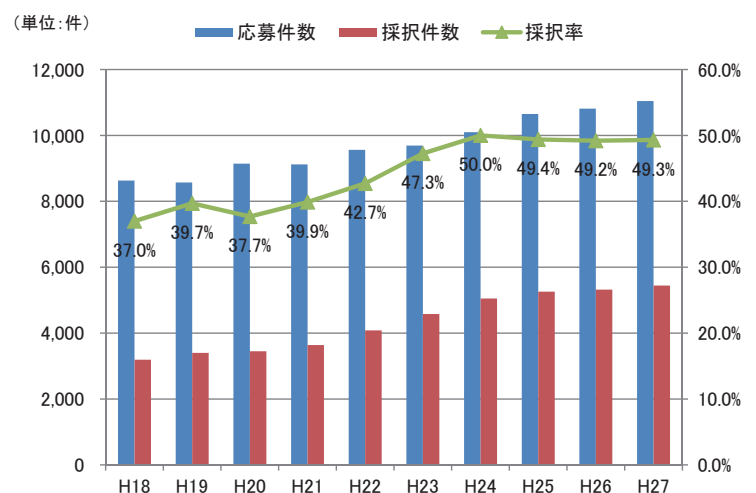
「科学研究費助成事業：応募、採択ともに増加傾向」

○文部科学省科学研究費助成事業における公立大学の応募及び採択件数は、いずれも増加が続いている。採択率も増加傾向にあり、公立大学においても競争的資金の獲得に向けた取り組みが進んでいることが窺える。

○平成18年度と27年度を比較すると、応募件数が8,631件から11,043件へと27.9%の増、採択件数が3,194件から5,446件へと70.5%の増となっている。

※いずれも新規採択+継続分の件数である。

科研費の応募件数及び採択件数の推移



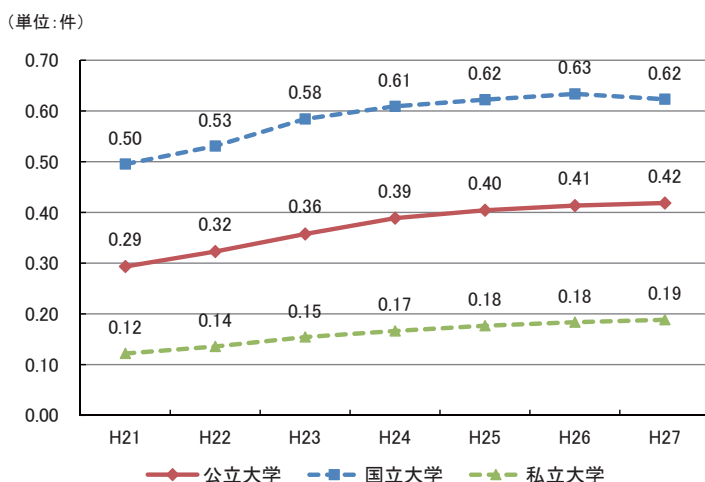
平成20年度までは科学研究費助成事業の「配分状況表（大学種別）」を、平成21年度以降は「配分状況表（研究機関種別）」をもとに作成

○科学研究費助成事業の採択件数を教員一人当たり換算し、国公立大学で比較を行った。

件数自体では国立大学には及ばないものの、平成21年度には教員一人当たり0.29件だったものが、平成27年度には0.42件へ、着実に件数を伸ばしている。

※継続分を件数に含めて計算
 ※教員数は、前年度における学校基本調査の本務教員数とした。

科研費の教員一人当たりの採択件数



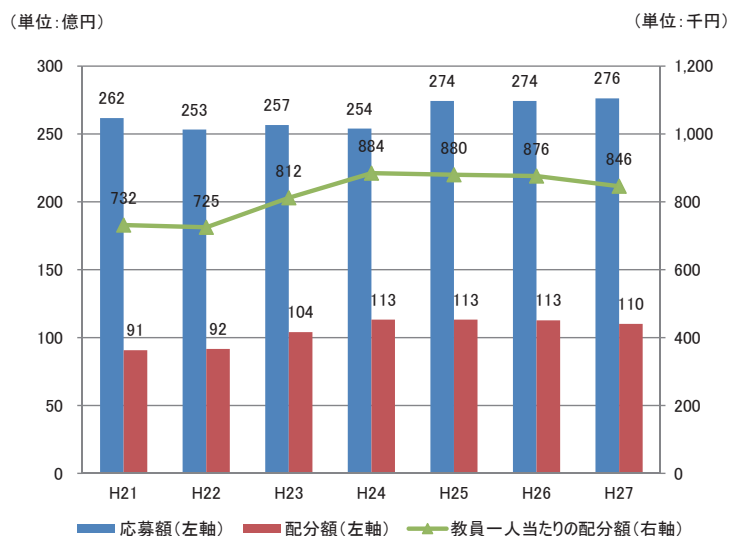
日本学術振興会「配分状況表（研究機関種別）」をもとに作成

○件数と同様に、配分額（直接経費及び間接経費）においても、公立大学全体の実績は増加傾向にある。

公立大学への配分額を、公立大学の教員一人当たり換算すると、平成21年度の732千円から平成27年度の846千円へと15.6%上昇している（※）。

（※）【参考】平成27年度の配分額の総額（全研究機関）は、平成21年度に対し、9.4%の増となっている。

公立大学における科研費の応募額及び配分額の推移



日本学術振興会「配分状況表（研究機関種別）」をもとに作成

「競争的外部資金を受け入れている大学は62大学」

- 公立大学実態調査では平成17年度より文部科学省の科学研究費補助金以外の各種競争的資金についての調査項目を追加した。平成26年度の競争的外部資金受入金額実績については、下表のとおり。
- 競争的資金の種類としては、GP等の文部科学省の各種競争的資金、厚生労働科学研究費補助金をはじめ、日本学術振興会、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）などの助成機関、総務省や経済産業省、環境省などの官庁や、自治体等地域からの資金など、多様である。

科研費以外の競争的資金の受入金額

競争的外部資金区分		採択件数	受入金額(円)	間接経費(円)
政府等の助成金	総務省	26	191,862,125	26,449,674
	文部科学省	367	5,484,375,702	506,784,023
	厚生労働省	135	1,807,402,998	327,759,000
	農林水産省	28	309,937,216	35,801,706
	経済産業省	90	812,717,143	51,810,792
	国土交通省	4	6,392,820	531,900
	環境省	25	507,771,876	50,023,683
	その他省庁等	23	158,869,607	14,445,924
地方自治体等の助成金		126	275,540,040	7,100,351
民間からの助成金		550	567,429,818	8,629,249
海外からの助成金		2	12,018,050	

平成27年度公立大学実態調査表より作成

「約1,600件の共同研究、2,000件以上の受託研究を受け入れ」

- その他の外部資金における共同研究・受託研究の受け入れ状況については、表のとおり。
- 共同研究や受託研究については、各大学の強み、地域の特性に応じた様々な研究が行われている。

共同研究

相手先区分	受入件数	受入金額(円)	共同研究員受入人数
国内企業	1,343	1,905,852,335	180
国	7	13,677,000	
独立行政法人	72	36,420,264	2
その他公益法人等	43	36,053,355	2
地方公共団体	46	39,552,419	7
外国企業	13	62,327,186	
大学	72	32,053,912	
その他	51	72,258,861	
合計	1,637	2,186,159,332	191

受託研究

相手先区分	受託研究受入状況									
	一般受託研究		受託試験		病理組織検査		治験薬試験		合計	
	受入件数	受入金額(円)	受入件数	受入金額(円)	受入件数	受入金額(円)	受入件数	受入金額(円)	受入件数	受入金額(円)
国内企業	657	798,377,164	210	153,433,709	7	25,409,610	494	661,687,900	1,368	1,638,908,383
国	100	1,402,935,759							100	1,402,935,759
独立行政法人	252	1,380,180,259	3	194,400	2				257	1,380,374,659
その他公益法人等	202	261,903,761	18	8,236,200	8	494,500	7	1,529,000	235	272,163,461
地方公共団体	241	398,509,302			4	12,372,008	1		246	410,881,310
外国企業	7	9,200,757					1	829,000	8	10,029,757
大学	73	284,175,058							73	284,175,058
その他	132	190,196,403	5	442,000	13	9,041,731	2	412,000	152	200,092,134
合計	1,663	4,731,503,915	236	162,306,309	34	47,317,849	505	664,457,900	2,438	5,605,585,973

平成27年度公立大学実態調査表より作成